

第17節 電波障害

	項 目	概 要
調 査	テレビジョン 放送電波の 受信状況	調査目的 事業予定地周辺民家等の電波受信状況の把握
		現地調査 〔調査事項〕○電界強度分布状況・テレビ受信画質評価 (地上波アナログ、地上波デジタル) ○共同テレビ受信施設の状況 ○マイクロウェーブの送信経路 〔調査方法〕○電界強度分布状況・テレビ受信画質評価 電波測定車による測定 ○共同テレビ受信施設の状況 電気通信管理局への問合せ及び現地踏査 ○マイクロウェーブの送信経路 東海総合通信局への問合せ 〔調査地点〕 事業予定地周辺 〔調査期間〕 平成16年2月21日(土)～平成16年3月12日(金) 平成17年1月13日(木)～平成17年2月2日(水)
予 測	存在・供用時 テレビ ジョン 電波 障害の 程度 及び 範囲	〔予測事項〕○地上波アナログのしゃへい障害及び反射障害 ○地上波デジタルのしゃへい障害及び反射障害 〔予測条件〕○施設の位置及び大きさは事業計画の概要参照 ○地上波アナログ:名古屋(錦)送信局 VHF (Lo-ch、Hi-ch) ○地上波アナログ:名古屋(東山)送信局 UHF ○地上波デジタル:名古屋(瀬戸)送信局 20ch 〔予測方法〕「建造物障害予測の手引き 改訂版」(平成7年9月 (社)日本C ATV技術協会)及び「建造物障害予測技術(地上波デジタル)」 (平成15年5月 NHK 受信技術センター)に基づく予測 〔予測地点〕 電波障害が生じる範囲 〔予測時期〕 施設完成時(本施設全体供用時及び第1期施設供用時)

1 調査結果の概要

(1) 地上波アナログ

電波測定車により50地点で調査した。VHF局の受信状況は、いずれかのチャンネルにゴーストが見受けられる状況であった。特にローチャンネル(1, 3チャンネル)に多く見られた。UHF局の受信状況は、25, 35チャンネルともにゴーストの目立つ地点があった。

(2) 地上波デジタル

電波測定車により20地点で調査した。ブロックノイズが確認されるチャンネルがあった。概ね全チャンネル良好に受信されていた。

(3) 共同テレビ受信施設の状況

名古屋市営住宅内の一部に設置されていた。

(4) マイクロウェーブの送信経路

事業予定地内に存在するマイクロウェーブ通信回路は、重要無線通信に該当するものとし

ないものがあった。なお、現計画の煙突位置はこの通信回線の電波伝搬防止区域を外れている。

2 予測及び評価（存在・供用時）

2-1 テレビジョン電波障害の程度及び範囲

(1) 予測結果

障害は建物幅が広く、建物高さの高い焼却炉棟、汚泥棟及び煙突が大きく寄与しており、その範囲は地上波アナログ、地上波デジタルともに住居地域には現れないと予測される。事業予定地に隣接した一部の工場地帯（東側を除く）では、地上波アナログ、地上波デジタルともに障害が予測される。

(2) 環境の保全のための措置

- ・焼却炉棟等の建物幅が広く、建物高さの高い電波障害の要因となる施設を可能な範囲で敷地境界から離す。
- ・苦情が発生した場合は、状況を確認し対応する。

(3) 評 価

障害が予測される範囲は住居地域には現れないが、事業予定地に隣接した工場地帯（東側を除く）においては障害が予測される。しかし、障害範囲は地上波アナログより地上波デジタルの方が狭く、施設の供用開始時には地上波デジタル放送への移行が進んでいることを勘案すれば、施設の存在に伴う電波障害の影響は軽微であると考ええる。

また、焼却炉棟等の電波障害の要因となる施設を可能な範囲で敷地境界から離すこと等の措置を講じることから、施設の存在に伴う電波障害の影響は低減できるものと判断する。